

参考文献

1. 小島圭三・渡辺弘之・中村慎吾 (1962) カミキリムシの後食, 比和科学博物館研究報告 5 : 16-23.
2. 福田晴夫ほか (1972) 幼虫の食性, 原色日本昆虫生態図鑑Ⅲチョウ編, 保育社, pp.40-41.
3. 谷角素彦 (1988) 但馬地方におけるラミーカミキリの記録, IRATSUME12 : 31-33.
4. 佐藤邦夫 (1987) 但馬地方のカミキリムシ, IRATSUME11 : 72-90.
5. 佐藤邦夫 (1988) 但馬地方のカミキリムシ (Ⅱ), IRATSUME12 : 24-30.
6. 佐藤邦夫 (1990) 但馬地方のカミキリムシ (Ⅲ), IRATSUME13-14 : 41-43.
7. 佐藤邦夫 (1996) 但馬地方のカミキリムシ (Ⅳ), IRATSUME20 : 87-92.
8. 永幡嘉之 (1993) 但馬のカミキリムシ1992, IRATSUME17 : 51-70.
9. 永幡嘉之 (1994) 但馬のカミキリムシ1993, IRATSUME18 : 16-42.
10. 永幡嘉之 (1996) 但馬のカミキリムシ第3報, IRATSUME20 : 46-55.
11. 佐竹義輔ほか (1982-1989) 日本の野生植物 草本編・木本編, 平凡社, 東京.

コルリクワガタの 低山地からの追加記録

永幡 嘉之

コルリクワガタ *Platycerus acticolis* は, 西日本では山地性の種であるが, 但馬地方ではやや標高の低い地域 (標高350~800m) にも分布することが知られている。このたび, 温泉町の低山地で本種の新産地を発見したので報告する。

1♂, 美方郡温泉町桧尾 (標高340m), 1-I-1997, 永幡嘉之採集

桧尾では集落の周辺にブナの二次林が広がっている。イヌブナ・アカガシの混じる林で, 細い朽ち木からいくつかの産卵マークを発見したほか, 同行した川元裕氏が幼虫を数頭採集した。採集できた成虫は上記の1頭のみであった。同地ではブナの芽吹きは4月上旬に始まり, 中旬には大部分のブナが葉を広げるので, 本種の出現期も4月中旬頃ではないかと予想される。

当日, 桧尾を訪れた後で温泉町高山 (標高400m) に向かい, ここでもコルリクワガタを探索した。高山

では集落の背後に社叢林としてブナの林が存在し, この林は胸高直径が80cmを超える木も多い大径林であるが, 本種の産卵マークは全く発見することができなかった。数時間の調査にすぎないが, この林には生息していない可能性がある。桧尾と高山は大空山 (標高575m) の東西に位置し, 直線距離で約2kmと, 距離的には近い場所である。

コルリクワガタは, 但馬では標高が低くなると成虫が小型化するという現象が顕著にみられ (これについてはもう少しサンプル数を増やしてから発表する予定である), おそらく低地では夏季の高温が幼虫の成長を阻害するのではないかと考えている。低標高地にもブナの自生する地域は多いが, ブナがあれば本種も産するというものではなく, 本種の分布はブナの分布よりもさらに局地的になることが考えられる。今後, 温泉町千谷・鐘尾, 浜坂町中小屋, 香住町余部・三川などの標高の低いブナ林でも本種の分布を調査したいと考えている。

調査に同行された山口県岩国市の川元裕氏に御礼申し上げます。

参考文献

- 永幡嘉之 (1993) 来日岳でコルリクワガタを採集, IRATSUME17:78.
佐藤邦夫・永幡嘉之 (1994) 兵庫県におけるルリクワガタ属の分布について, IRATSUME18:52.